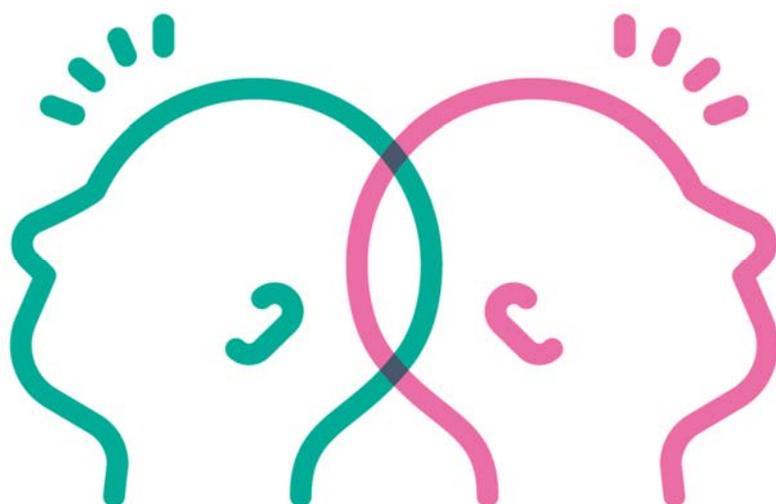


これから世界に羽ばたきたいすべての人へ

日本科学協会主催セミナー

木^{こだま}魂する科学とココロ

科学と文化の交差点 宗教文化篇



2017.7.2開催セミナー 実施報告書

2017.7.25

実施概要

2017年7月2日、日本財団ビル2階会議室にて、セミナー「木魂する科学とこころ」が開催されました。お蔭様で、定員を上回る方々の応募があり、121名が参加されました。暑い中、ご来場くださった皆様ありがとうございました。

講演会は13:00～18:30と長時間にわたりました。前半は「ヨーロッパとの対話」、後半は「アジアからのメッセージ」と2部構成です。11名の講師が「科学と宗教」について、ご自身の専門分野についてお話されました。

各部4名の講師が20分ずつお話した後、総合コーディネーター、モデレーターが加わり、パネルディスカッションを行いました。ディスカッションは、休憩時間中に会場から回収した質問票の内容に講師が回答する形で行われました。

各講師の話が20分ずつで短すぎるのもっとお話を聞きたいという意見もありましたが、その反面半日でまとまって良かったというご意見もいただいております。

チラシ



プログラム

開会

13:00～挨拶 公益財団法人日本科学協会 会長 大島 美恵子
概要説明 総合コーディネーター 金子 務 (大阪府立大学名誉教授)

第1部 ヨーロッパとの対話 ～知と信の原型から～ モデレーター：岡本 拓司 (東京大学大学院総合文化研究科准教授)

1. 13:10～「世界宗教と科学」伊東 俊太郎 (東京大学名誉教授)
 2. 13:30～「キリスト教以前の科学と宗教」山口 義久 (宝塚大学副学長)
 3. 13:50～「ガリレオ裁判」田中 一郎 (金沢大学名誉教授)
 4. 14:10～「人類文明史の再構築から」嶋田 義仁 (中部大学特任教授)
- 14:30～ <休憩 10分> 質問票回収
5. 14:40～ 第1部 パネルディスカッション

15:40～ <休憩 15分>

第2部 アジアからのメッセージ ～こころの深層を巡って～ モデレーター：酒井 邦嘉 (東京大学大学院総合文化研究科教授)

6. 15:55～「科学と宗教の融和と拒絶」正木 晃 (慶應義塾大学文学部非常勤講師)
 7. 16:15～「原始仏教における知と信」植木 雅俊 (NHK文化センター講師)
 8. 16:35～「脳とこころと無意識」前野 隆司 (慶應義塾大学大学院SDM研究科委員長/教授)
 9. 16:55～「鈴木大拙・折口信夫・宮沢賢治」安藤 礼二 (多摩美術大学美術学部教授)
- 17:15～ <休憩 10分> 質問票回収
10. 17:25～ 第2部 パネルディスカッション

閉会 18:25～

実施概要

◆ 開会



開催挨拶
大島美恵子（日本科学協会 会長）



司会
中村健治（日本科学協会 常務理事）



総合コーディネーター
金子務先生（大阪府立大学名誉教授）



会場風景

実施概要

◆ 第1部 ヨーロッパとの対話 ～知と信の原型から～



「世界宗教と科学」
伊東俊太郎先生（東京大学名誉教授）



「キリスト教以前の科学と宗教」
山口義久先生（宝塚大学副学長）



「ガリレオ裁判」
田中一郎先生（金沢大学名誉教授）



「人類文明史の再構築から」
嶋田義仁先生（中央大学特任教授）



「第1部パネルディスカッション」
モデレーター 岡本拓司先生（東京大学大学院総合文化研究科准教授）

実施概要

◆ 第2部 アジアからのメッセージ～心の深層を巡って



「科学と宗教の融和と拒絶」
正木晃先生（慶應義塾大学文学部非常勤講師）



「原始仏教における知と信」
植木雅俊先生（NHK文化センター講師）



「脳とところと無意識」
前野隆司先生
（慶應義塾大学大学院SDM研究科委員長/教授）



「鈴木大拙・折口信夫・宮沢賢治」
安藤礼二先生（多摩美術大学美術学部教授）



「第2部パネルディスカッション」
モデレーター 酒井邦嘉先生（東京大学大学院総合文化研究科教授）

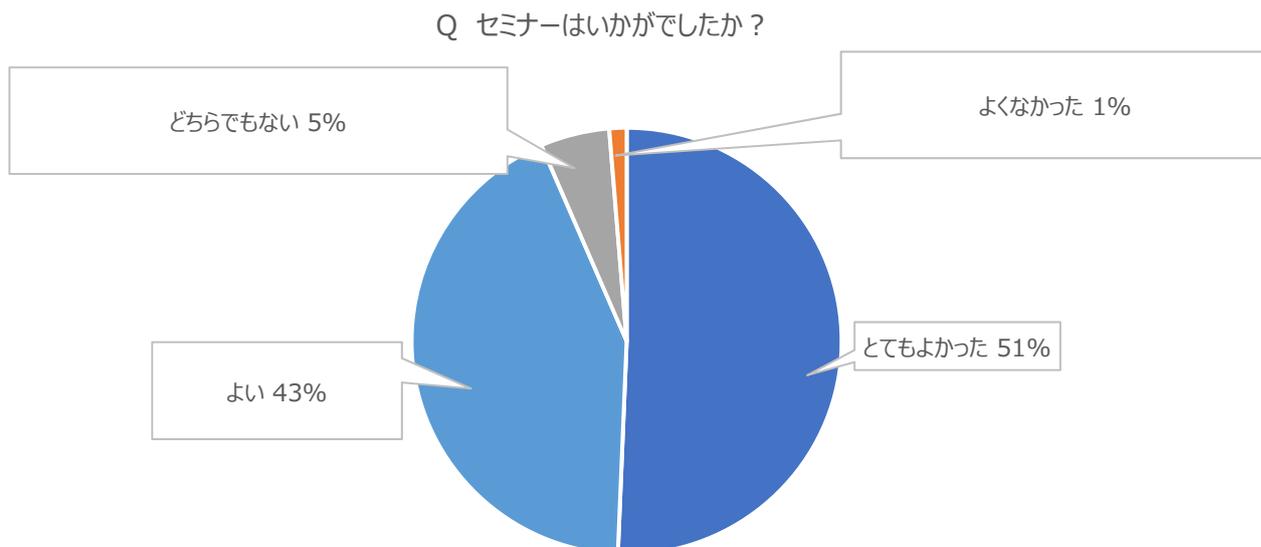


アンケートの結果

ご回答いただきましたアンケートを集計した結果（80件/121件回収）をご報告いたします。

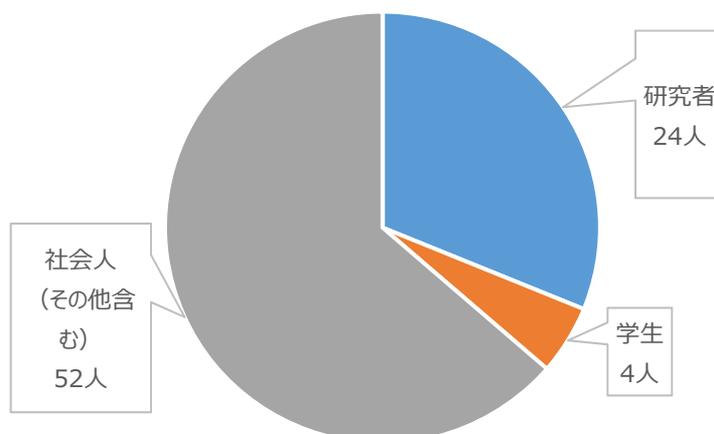
◆ 参加者の評価

セミナーの内容については、半分の方が「とてもよかった」、43%の方「よかった」とご回答いただきました。



◆ 参加者の職業の内訳

研究者24名、学生4名、社会人（その他含む）52名です。



アンケートの結果

ご回答いただきましたアンケートを集計した結果（80件/121件回収）をご報告いたします。

◆ 研究者の反応

日本科学協会は、科学研究を中心とした若手研究者の助成制度を今年で30年行っており、研究者の反応に注目してみました。

- ★研究者（24名）のうち、理系文系がほぼ半々
- ★研究者のうち63%の人が、「とてもよかった」と回答
- ★研究者からのコメント（抜粋）

（理系研究者）

「日常は哲学・宗教について考えないが、良い機会となった」
「一般的な人には難しい内容であったが、こういうことを考えるきっかけになりました。」
「普段科学に関わっていることの方が多いですが、宗教との接点という難しい問題について考える良い機会になりました。視野が広がりました。」

（文系・その他研究者）

「様々な分野の知見をつなげて理解・検討することができた」
「多様な要素、事例を含む宗教の様相を明らかにしながら、科学との接点、お互いの到達点の相通について、具体的に論じられることを聞くことができ勉強になりました。」
「いろんなお話が聞けたのが素晴らしかった。宗教の話と技術の話のバランスがよかったです。」

今まで理系の研究者や学生との関わりが圧倒的に多かったのですが、このセミナーでは幅広い層の方が興味を持ち、理系文系問わず自身の専門分野の枠を超えた分野のアンテナ磨きに役立てたいという、総合コーディネーター金子先生の思いが届いたように手ごたえを感じます。

◆ 今後の取り組みについて

お寄せいただいたご意見・ご要望の中では、第2部のパネルディスカッションで盛り上がりました「倫理やA I」に関することを取り上げたセミナーのご要望を多くいただいております。

また、理系の研究者からは様々な科学分野の研究者の話を聞きたい、文系の研究者からは文系理系の両面からアプローチする多学際的なセミナーのご要望があり、専門分野だけではなく幅広い視野を磨く場を求められていることを実感いたしました。

今後、科学隣接領域研究会では、「科学と倫理」「科学とアート」について取り上げる予定です。